

# ボランティア活動報告 2015 『ボランティアステーション学習会』

日時:2015年5月5日(火・祝)

場所:関上地区・愛島東部仮設住宅



↑取り外した黒板にはまだ当時の「卒業」の文字が。  
長沼さんから残したいもの、残したい想いを伺いました。

ボランティアに興味はあるけど何をしたいのかわからない…」等といった学生の不安に応えるため、尚綱学院大学では毎年5月5日に、被災地バスツアーと仮設住宅の支援を目的とした学習会を行っています。

今年は約30名と例年よりも多くの学生が参加し、被災の大きさや深刻さ、それらに関わるボランティアの在り方等、多くのことを考え学ぶ日となりました。



↑かさあげ工事が始まっています。この風景も来年にはどのようになっているのでしょうか。

午前中はバスで関上中学校や日和山を回り、長沼さんから震災当時の貴重な体験談を聴きました。尚綱の学生の多くは東北出身ですが、一口に東北地区と言っても被害の大きさはそれぞれ違い、また、比べられるものではありません。ニュースや新聞では伝わりきれなかった当時の関上の様子を知り、長沼さんの話を通して自身の被災当時の経験をふり返ることで、改めて4年前の震災の記憶に向き合いました。



左の写真は愛島東部仮設での様子です。初めは緊張気味の学生が多かったように見えたが、愛島の方々の明るさにつられ学生にも徐々に笑顔が。各テーブルそれぞれの話題で盛り上げていたようです。

↑青いジャンパーを着ているのが尚綱の学生・教職員です。  
お菓子やジュースを飲み、リラックスした様子で写真に映っています。



交流会の後、今日の学びや交流会での楽しさを忘れず、この経験が学生の力や自信になれるよう一人一人が振り返りを行いました。

学習会に協力して下さった長沼さん、愛島東部仮設の皆さん、有難うございました。

↑大学に戻ってからの学生の様子です。  
各自真剣に振り返りに取り組んでいます。